

A 191 女子学生の外出パターンと生活状況の関連性
大寺前女短大 ○河野昭子

目的 女子学生を対象に、外出のメニューに依る外出喫食頻度を調べることで、
外出における嗜好を知り、さらにその外出パターンに関連を有する生活環境要因について
検討した。

方法 調査時期は1985年6月～10月、大寺前女短大生487人を対象とした。調査方法は
配票調査法により、外出メニューに対してその喫食頻度を5段階採点法で記入させ、同時に
学生の生活環境要因について質問した。分析は京大大型計算機センターSPSSパッケージ
システムを用い、席数分布、クロス分析、クラスター分析、林数量化工類による分析を行った。

結果 12種のメニューに依る平均値と分散から、一致してよく好まれるものは、ス
パゲティ、カントイッチ、ジュースとあった洋風軽食であり、一致して好まれないものは、
丼物、そば等和風主食類であり、ほかつきの大きいメニューはコーヒーやミルクであった。
12種のメニューに依り、5段階評価に、その実際の頻度に即した重み付けをしてクラス
ター分析をしたところ、丼・麺類、肉料理類、洋風軽食類、菓子類とあった7つのカ
ルーに分類された。さらにこのグループ毎の平均点で学生をクラスター分析すると、
外出の頻度や量の異なる3つのグループが生成した。この学生グループの特徴と他の生活環境との関
連性から説明すると、外出する理由、通学時間、睡眠時間、学年、こまかい親が、大きく
外出行動に影響していることが認められた。